

2025年（令和七年）

10月17日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週(10月9日～15日)の国際石油市場は、イスラエルとハマスの第1段階の停戦合意に伴う緊張緩和、米中間の貿易摩擦激化による経済後退懸念、国際エネルギー機関(IEA)・OPECの月報の発表等を主な要因として、軟化傾向で推移した。

NYのWTI原油先物市場は、10月9日は5営業日ぶり反落の61.51ドルと60ドル台で始ったが、週末10日も大幅続落で60ドル割れの58.90ドル、週明け13日には59.49ドルまで反発したもの、14日は反落、15日は続落の58.27ドルで終わった。

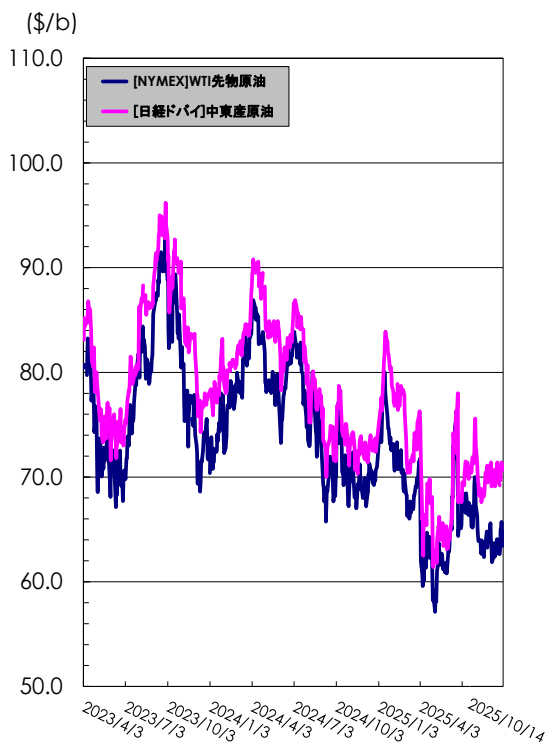
また、中東産バイ原油/東京市場(11月渡し)も、前週(10月2日～8日)は64.70～66.00ドルの範囲で推移したが、当週は、10月9日66.10ドル、10日65.00ドル、13日休場14日63.40ドル、15日62.50ドルだった。

対ドル為替レート(TTM)は、前週(10月2日～8日)148.19～153.31円の範囲で推移したが、当週は、10月9日153.74円、10日154.09円、13日休場、14日153.49円、15日151.67

円だった。

そのような中で、10月14日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.7円安、軽油も同0.6円安、灯油は同6円安(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は174.7円だった。10月16～22日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されているため、定額分のみ、ガソリン・軽油は10.0円、灯油・重油の場合は5.0円となった。

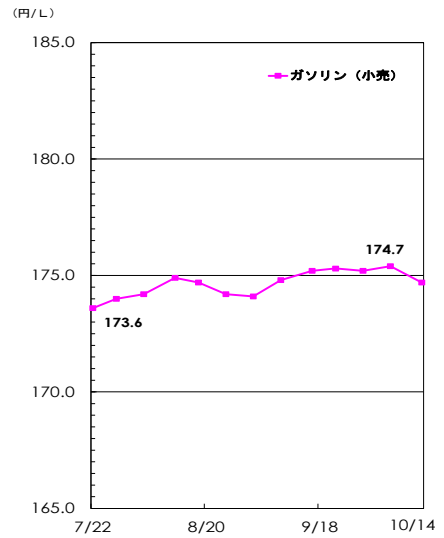
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/5～10/11	2,505 ▼-34	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	72.4 ▼-0.9	▼-
	原油在庫量 (千kl)	10/11	10,288 ▼-1	▼-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	10/14	63.40 ▼-1.90	▼-10.9
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/13	59.49 ▼-2.20	▼-14.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	73.27 ▲0.71	▼-9.56
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	68,086 ▲722	▼-7,108
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	147.75 ▼-0.16	▼-3.43
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/14	153.49 ▼-2.71	▼-2.82



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/11	1,564	▲ 20	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/7 ~ 10/13	81.0	→ 0.0	→ 0.0
		(TOCOM/中部)	10/13	→ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/14	▼ -0.7	▼ -0.2

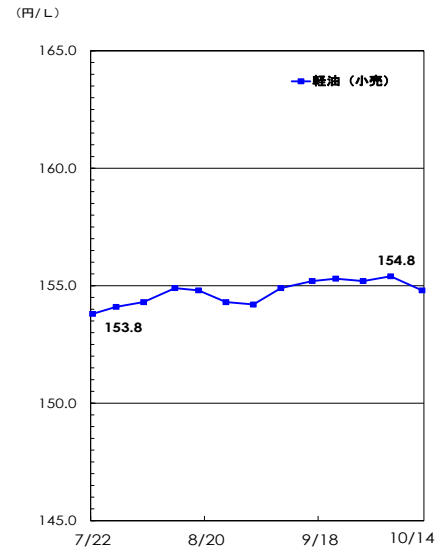
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

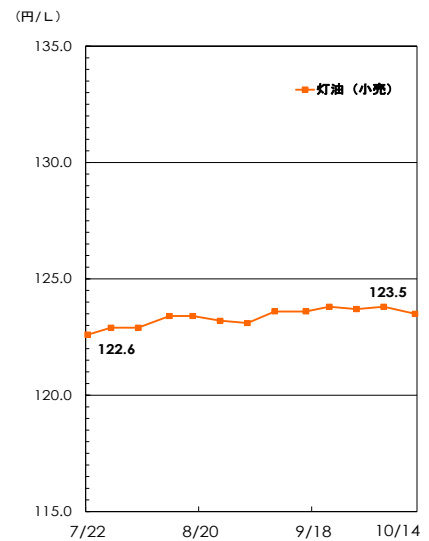
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/11	1,500	▼ -77	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/7 ~ 10/13	82.9	▼ -1.0	▲ 0.1
		(TOCOM/中部)	10/13	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/14	▼ -0.6	▲ 0.3

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/11	2,813	▲ 46	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/7 ~ 10/13	85.0	→ 0.0	▲ 4.0
		(TOCOM/中部)	10/13	→ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	10/14	▼ -0.3	▲ 6.2



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(10月2日～8日)のNYMEX・WTI先物市場は、60.48～62.55ドルの範囲で推移した。

当週10月9日は、イスラエルとハマスによる人質全員解放を含むパレスチナ・ガザ地区の第1段階の停戦合意の締結による中東の緊張緩和、また、ドル高・ユーロ安に伴う原油先物の割高感に伴う売りによって、5営業日ぶりに反落した。11月物終値は前日比1.04ドル安の61.51ドル。

週末10日は、トランプ大統領による中国のレアアース貿易規制に対抗した対中100%関税の賦課・米中首脳会談の中止の示唆による米中対立の激化への警戒感、また、パレスチナ停戦第1段階合意へのイスラエル議会の承認による中東における更なる緊張緩和、さらには、米国株式市場の大幅値下がりに伴うリスク回避姿勢の高まりによって、大幅に続落した。11月物終値は前日比2.61ドル安の58.90ドル。

週明け13日は、トランプ大統領の対中姿勢の軟化に伴う米中貿易摩擦激化懸念の後退、また、週末の安値に伴う買いによって、3営業日ぶりに反発した。ただ、同日のハマスによる人質20名全員の解放実現に伴う緊張緩和は、上値を抑えた。なお、この日発表のOPEC月報は、25年と26年の世界の石油需要の前年比伸びの見通しを夫々130万BD・138万

BDと前月発表を据え置いた。11月物終値は前週末比0.59ドル高の59.49ドル。

14日は、中国政府が韓国の在米造船子会社に対し米国の対中調査に協力したとして取引停止を通告、米中貿易摩擦激化の懸念が高まった。また、この日発表のIEAの月報が、25年の世界の産油量を対前年比300万BD 増加への上方修正、来年度はさらに伸びる、加えて、足元では洋上在庫が増加しており、来年度の供給過剰は400万BDに拡大すると予想、需給緩和大幅拡大の懸念も高まり、反落した。11月物終値は0.79ドル安の58.70ドル。

15日は、中国のレアアース輸出規制に伴う米国の港湾手数料徴収など米中間の貿易摩擦激化による景気後退懸念、また、前日のIEA月報等による需給緩和拡大懸念から、続落した。11月物終値は0.43ドル安の58.27ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の10月10日現在の米国在庫週報は、13日がコロンブスデーの祭日に当たり、一日遅れ16日の発表予定。

EIAによると、10月13日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比6.3セント安の1ガロン3.061ドル(124.5円/ℓ)と2週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比4.6セント安の1ガロン3.665ドル(149.0円/ℓ)と2週連続の値下がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、10月10日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比4基減の418基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、10月05日～10月11日に休止したトッパー能力は49.1万バレル/日で、前週に対して0万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は250.5万klと、前週に比べ3.4万kl減少。前年に対しては14.3万klの減少。トッパー稼働率は72.4%と前週に対しては0.9ポイントの減少、前年に対しては4.1ポイントの減少となった。

4 国内/製品在庫量

10月11日時点の在庫は、前週に対してガソリン、灯油、C重油は積み増し、ジェット、軽油、A重油は取り崩しとなった。

ガソリンは156.4万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては4.9万kl少ない。

灯油は281.3万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては22.6万kl多い。

軽油は150.0万kl、前週差7.8万kl減。前年に対しては9.2万kl多い。

A重油は77.6万kl、前週差0.9万kl減。前年に対しては6.3万kl多い。

C重油は156.1万kl、前週差1.9万kl増。前年に対しては8.4万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (10/11)	前週 (10/4)	前週比	
ガソリン	1,564	1,544	▲ 20	(1%)
ジェット燃料	944	969	▼ -25	(-3%)
灯油	2,813	2,767	▲ 46	(2%)
軽油	1,500	1,577	▼ -77	(-5%)
A重油	776	785	▼ -9	(-1%)
C重油	1,561	1,541	▲ 20	(1%)
合 計	9,158	9,183	▼ -25	(-0.3%)

5 国内/元売会社製品卸価格

10月7日～13日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりしたが、為替レートは大きく円安に振れ、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。また、9月4日以降、補助金は、定額(揮発油・軽油は10円、灯油・重油は5円)で据え置かれていることから、補助金込みの実質卸価格はそのまま値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

10月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円安の174.7円、軽油も同0.6円安の154.8円、灯油は18㉔ベースで同6円安の123.5円(1㉔ベースでも同0.3円安の123.5円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが4県、横ばいは1県、値下がり42県だった。全国最安値は愛知県の169.3円、その次は埼玉県の169.4円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.5円。最も値上がりしたのは愛媛県(前週比0.9円高)、最も値下がりしたのは石川県(同1.9円安)だった。

次回調査時(10/20)のガソリンの小売価格は、前週分の値下がり転嫁が続くものと考えられることから、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/㉔)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/14)	前週 (10/6)	前週比	直近高値	
				2023/9/4 2025/4/14	186.5
レギュラー	174.7	175.4	▼ -0.7	08/8/11	132.1
灯油	123.5	123.8	▼ -0.3	08/8/4	167.4
軽油	154.8	155.4	▼ -0.6		

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第29号)の公表は、10/24(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘッドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。